

【書評・紹介】

国の重要文化財指定記念誌 絵本『りゅうのひかり』

絵と文 時崎清氏 解説文 夏井芳徳氏
編集・発行 長久保赤水顕彰会
200 × 250mm 2020年3月31日発行 1000円+税

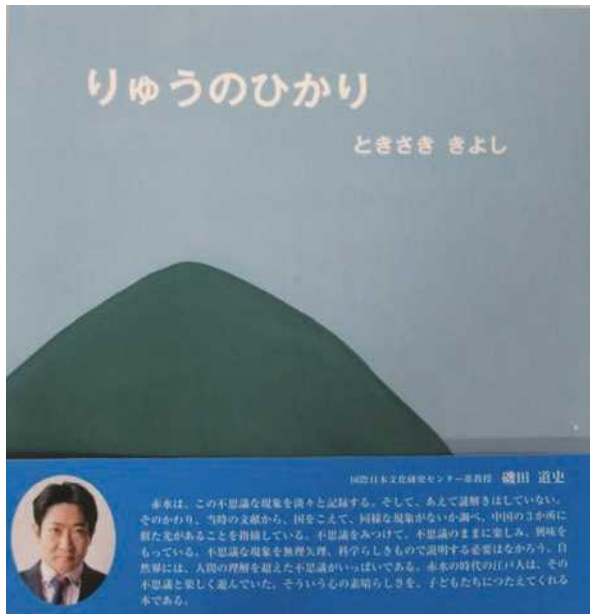


図1 絵本『りゅうのひかり』

長久保赤水の『赤水図』第2版には、この絵本『りゅうのひかり』で紹介する福島県四倉沖の「関伽井嶽龍燈」をはじめ、新潟県沖には、北越七奇の一つである天然ガスの不思議さ、さらには、周防灘には不知火、有明海には、火の国の記述など、4か所に書き込みが見られる。この中から、最も書き込みの多かった「関伽井嶽龍燈」が、このほど国の重要文化財指定記念誌絵本「りゅうのひかり」として出版された。

絵と文は、長久保赤水顕彰会会員の時崎清さんが描き、解説文は、医療創生大学客員教授の夏井芳徳先生が担当された。

初めて『りゅうのひかり』の絵を見た時、時崎さんの素晴らしい感性に驚いた。すでに、絵本『海への町へ』（おおしま国際手作り絵本コンクール2015最優秀賞受賞）や数々の8ミリ映画受賞作品などで、その才能が高く評価されていることも知っていたが、「すごい」と驚いた。文字は、最小限。ただ、闇夜の絵の色

使い、玉から線へと続く光の動き、そして、龍へと吸い込まれるように読んだ。木の枝にとりつく玉と、雫となって消えるシーンの表現は、特に素晴らしいと感じた。

このため、今回の絵本『りゅうのひかり』の出版にあたり、永年、福島県いわき市で関伽井嶽龍燈の研究をされている夏井芳徳先生に、ご相談したところ、快く原稿を書いてくれた。

夏井先生の前稿には、『東奥紀行』や『東北南部から近畿図』『赤水図』『遊関伽井嶽龍燈記』などの全ての原稿を網羅して、詳しく解説していただいた。

赤水が、いわき湯本温泉に宿泊して、実際に関伽井嶽で龍燈を観ていたことも今回わかった。

今までの謎が一気に解消された気分になり、また、赤水の学問に対する真摯な態度やその記録、人間性にまで言及していただいた。

さらに、現在、NHKなどのマスコミで大活躍中の磯田道史先生に帯原稿とご挨拶文を書いていただいた。これにより「龍燈の伝承はインド発祥であり、中国経由で日本に入ってきた」ことを初めて知った。また、「赤水が文献を調べて、中国の三か所に似た光があることを指摘していること。自然界には、人間の理解を超えた不思議がいっぱいある。赤水の時代の江戸人は、その不思議と楽しく遊んでいた。そういう心の素晴らしさを、子どもたちに伝えてくれる本である。」と紹介していただいた。

時崎清さんと夏井芳徳先生、磯田道史先生に、重ねて感謝申し上げますとともに、多くの方々のご協力により、今回、長久保赤水関係資料の国の重要文化財指定記念誌として絵本『りゅうのひかり』を発行することができた。重ねてお礼申し上げます。

最後になるが、長久保赤水関係資料693点が、3月19日に、国の文化審議会から文部科学大臣へ「国の重要文化財指定が適当である」との答申があった事もあわせて報告する。

ぜひ、一人でも多くの子どもたちにも、この絵本『りゅうのひかり』を見ていただければ、幸いである。

(佐川春久)

*お問い合わせ 携帯 090-1846-6849

Eメール haruhisagawa@yahoo.co.jp

長久保赤水顕彰会事務局 佐川春久